

読書と教養の文化史

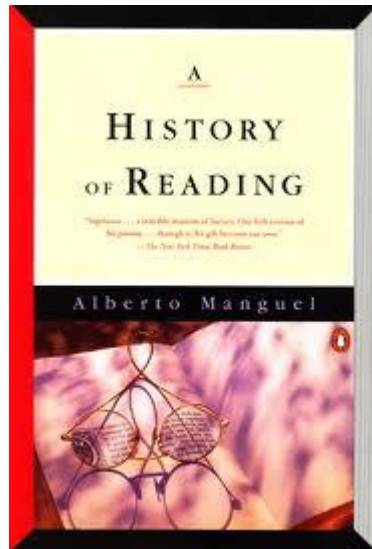
—A・マンゲル著『読書の歴史』を参照して—

日本国際教養学会第3回全国大会講演
(2014年3月16日)



原田 範 行
(東京女子大学教授)

なぜ『読書の歴史』か？



▪ Holbrook Jackson, *The Reading of Books* (1947)

Guglielmo Cavallo and Roger Chartier, eds., *A History of Reading in the West* (2003).

Steven Roger Fischer, *A History of Reading* (2004).

Janet Allen and Christine Landaker, *Reading History: A Practical Guide to Improving Literacy* (2005).

▪ *A History of Reading*
→ 作者・作品の歴史、
文学史との違い

▪ *A History of Reading*
→ 「あるいは読者の歴史」

Alberto Manguel (1948-)

アルゼンチン(ブエノスアイレス)出身。幼少期をイスラエルで過ごす。その後アルゼンチンへ戻り、**16歳の時、ピグマリオン書店でボルヘスに出会い、その読書(朗読)助手を務める。**ブエノスアイレス大学中退。パリ、ロンドン、トロント、カルガリー、タヒチなどに住み、数カ国語を操るポリグロットの作家、批評家、編集者、翻訳者として活躍。邦訳には『読書の歴史』のほか、『完訳 世界文学にみる架空地名大事典』(講談社)、『図書館 愛書家の楽園』(白水社)、『奇想の美術館 イメージを読み解く12章』(白水社)など。アルゼンチン、フランス、カナダなどでの文学賞受賞多数。ドイツ自由大学、ベルギー・リージュ大学ほか多数で教鞭もとり、名誉学位を受けている。現在はプアトゥ・シャラント(フランス)在住。





The Dictionary of Imaginary Places (1980)
Black Water: The Book of Fantastic Literature (1983, anthology)
The Oxford Book of Canadian Ghost Stories (1990, anthology)
White Fire - further fantastic literature (1990, anthology)
The Gates of Paradise: The Anthology of Erotic Short Literature (1993, anthology)
Meanwhile, In Another Part of the Forest: Gay Stories from Alice Munro to Yukio Mishima (1994, anthology)
A History of Reading (1996, non-fiction)
Lost Words (1996, anthology)
Reading Pictures: A History of Love and Hate (2000, art criticism)
Kipling: A Brief Biography for Young Adults (2000)
Stevenson under the Palm Trees (2003, novel)
With Borges (2004, biography)
El regreso (A Return) (2005, novel)
The Penguin Book of Christmas Stories (2005, anthology)
The Penguin Book of Summer Stories (2007, anthology)
A Reader on Reading (2010)
The traveler, the tower, and the worm: the reader as metaphor (2013)

読書、あるいは読者の諸側面を同構成するか？

最後のページ

〈読書すること〉

1. 陰影を読む
2. 黙読する人々
3. 記憶の書
4. 文字を読む術
5. 失われた第一ページ
6. 絵を読む
7. 読み聞かせ
8. 書物の形態
9. 一人で本を読むこと
10. 読書の隠喩

序論

〈読書すること〉

1. 書いてあるものの多義性
2. 黙読の始まり
3. 記憶、思考、アーカイヴ
4. 自律的読者の誕生
(cf. ヘレン・ケラーの場合を参照して)
5. 自己革新としての読書
6. 図像表現の意味
7. 朗読の意味
8. 書物の形態と出版史
9. 読書空間(特にベッド)
10. 読書の隠喩(崇高もしくはは美食)

<読者の力>

1. 起源
2. 宇宙を創る人々
3. 未来を読む
4. 象徴的な読者
5. 壁に囲まれた読書
6. 書物泥棒
7. 朗読者としての作者
8. 読者としての翻訳者
9. 禁じられた読書
10. 書物馬鹿

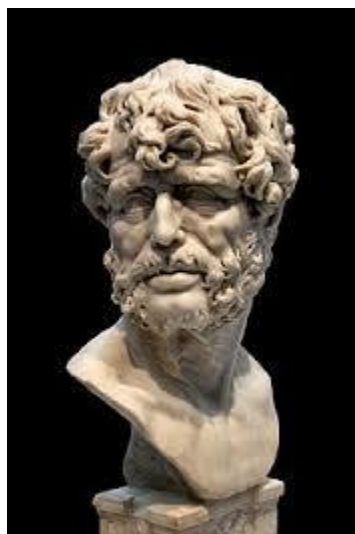
見返しのページ

<読者が発揮するさまざまな力>

1. 読者と書き手、作者と書き手
2. 読書と分類、学問の誕生
3. テクストの意味は読者の能力と願望によって拡充される
4. 読者が象徴する諸事情—ジェンダー、伝統、個性
5. 平安朝の女性たち—閉ざされた読者を<ひらく>読書
6. 私だけの書物—読者の所有欲
7. 小プリニウス、チョーサー、ディケンズ
8. 翻訳は可能か？
9. 検閲と弾圧
10. 逆境に抗して読書する人々

日はまた昇る、読書もまた始まる

陰影を読む / 記憶の書



文字を読む術



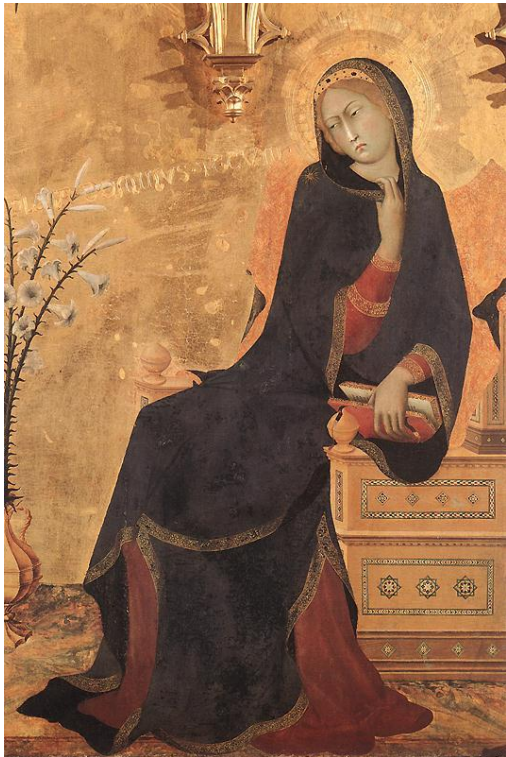
失われた第一ページ



宇宙を創る



象徴的な読者





It is a truth universally acknowledged, that a single man in possession of a good fortune, must be in want of a wife. (Austen, *Pride and Prejudice*.)

<婚活>は女性のもの？男性のもの？

(参考) だからこそ、母親は子供に言語を教へることができる(略) たしかにさうですな。その通りだと思ふ。殊に外国語の習得能力について言つてゐるところが鋭い。それがよくわかるのは『旧約聖書』の『創世記』です。その第三章で蛇はアダムに語りかけない。いきなりイヴに語りかける。そしてイヴは蛇に答へる。(略) わたしは男である小説家として、まへまへから一つ不安があつた。それは、ひよつとすると女のほうが男よりも小説が上手なのではないかといふことだつた。たとえば、人はたちまち、安心しろ、トルストイもセルバンテスも、ヘミングウェイも谷崎潤一郎も、みんな男だつたと励ましてくれるかもしれませんが、しかしわたしとしては、紫式部とジェイン・オースティンをはじめとする閨秀をぞろぞろ並べることができるから、とてもものんびりなんかしてゐられないのである。(略) もしあれが言語能力の優秀性にもとづくものだとしたらどうしよう。(丸谷才一「不言実行」『夜中の乾杯』所収)

書物馬鹿



<主体性、能動性>

道具ではなく思索主体としての読者
自律的読者、統合主体としての読者
感覚主体としての読者

<主体性、能動性とは？>

未知→既知・理解→否定→再・理解(疑うこと)

想像 / 創造力、推論、論理構成力

現実感覚(時間、空間に脈絡をつける(⇔surfing))

分類・範疇・カテゴリを超えて、社会的規範を超えて

！「到達目標」の参考文案(抽象的な目標を掲げるのではなく、学生が授業を履修することで獲得できる知識や能力を認識できるよう、具体的かつ平明に明示せよ。)

「・・・に対する問題意識を持つことによって・・・を客観的に捉える力を身につける。」

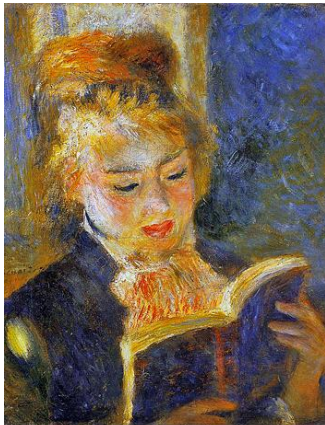
「・・・についての基本的な概念を理解し・・・について考える力を身につける。」

「・・・の根本的な問題点を整理し・・・に対する取り組み方を理解する。」

「・・・についての理解と・・・の相互関係を理解する。」

As they were about to remove the bodies, a person approached with a calmness of step and demeanour, as if he were alone unconscious of danger, and incapable of fear; and after looking on them for some time, burst into a laugh so loud, wild, and protracted, that the peasants, starting with as much horror at the sound as at that of the storm, hurried away, bearing the corpse with them. Even Stanton's fears were subdued by his astonishment, and, turning to the stranger, who remained standing on the same spot, he asked the reason of such an outrage on humanity. The stranger, slowly turning round, and disclosing a countenance which—(Here the manuscript was illegible for a few lines), said in English—(A long hiatus followed here, and the next passage that was legible, though it proved to be a continuation of the narrative, was but a fragment). * * * * *

The terrors of the night rendered Stanton a study and unappeasable applicant (Charles Maturin, *Melmoth the Wanderer*, Vol. 1; Ch.3)



Young Woman Reading a Book by Pierre-Auguste Renoir

*

最後のページ
見返しのページ
「まだ終わっていない」

